

Dr.ジューアの myカルテ

テーマ 畜舎消毒の基礎と効果的な消毒方法

家畜の健康を守る上で、抗菌剤やワクチンはとても重要ですが、環境中の菌やウイルスを減らす事ができる消毒は更に重要です。今回は畜舎消毒の基礎と効果的な消毒方法についてご紹介します。



水洗↓乾燥↓消毒↓乾燥

まず、畜舎消毒の前には水洗をする必要があります。なぜなら、糞等の有機物が残っている状態で消毒を行うと、消毒効果が低下するためです。消毒前には畜舎の床や壁の隙間、溝も含めて徹底的に水洗し、有機物を除去してください。

水洗後は十分乾燥させましょう。コンクリートや木材の表面には目に見えない穴が無数に開いています。この小さな穴に水がたまっていて、穴の中まで消毒薬が行きわたらず、病原体が生き残ってしまいます。

病原体の多くは乾燥に弱いので、消毒後にも十分乾燥させる事で消毒効果が高まります。季節にもよりますが、少なくとも1〜2日以上乾燥期間を設ける事が望ましいです。

消毒の3要素と種類

消毒薬の効果には「濃度・温度・時間」の3要素が影響します。

一般的に消毒薬は濃いほど消毒効果が高まりますが、濃すぎるとコストがかかるため、説明書通りの濃度で使用しましょう。また、温度が高いほど消毒

効果は高まります。特に気温が低下する冬場は、温湯の使用が効果的です。作用時間の延長も消毒効果を高め、冬場の消毒効果の低下を補う事ができます。

対象の病原体によって、効果のある消毒薬の種類は異なります。例えば口蹄疫ウイルスの場合、逆性石鹸では消毒効果がないため、より強力な消毒薬を用いる必要があります。ただし、消毒薬は種類によって安全性が異なり、使い方を間違えると人間や家畜の健康を損なう恐れがあります。使用の際には説明書をよく読み、消毒効果と安全性を比較した上で、適切な消毒薬を使ってください。

発泡消毒と空間消毒

次に、より効果的な消毒方法の発泡消毒と空間消毒を紹介します。

発泡消毒では消毒薬の付着力が増し、狙った箇所にとどまるため、作用時間が延びて消毒効果が高まります。加えて、発泡消毒では通常の噴霧消毒よりも濃度の濃い消毒液を使用するので、相乗効果が期待できます。更に消毒箇所が目に見えるため、ムラなく消毒できる利点もあります(写真)。

写真.発泡消毒の様子



もう一つは空間消毒です。空間消毒とは畜舎内の空気中に消毒薬を噴霧する事で、菌数やほこりを減らし、家畜の体表を消毒できるため、呼吸器病や皮膚病の被害を減らす事が可能となります。

ともすると日々の業務に追われ消毒がおろそかになりがちです。効果的な消毒を確実に実施し、畜舎内を清潔に保ちましょう。

撮影：株式会社科学飼料研究所・大石氏

●お問い合わせは全農家畜衛生研究所クリニックセンター (TEL: 043-486-1012)まで